

## 2014年度 人文・文化学群 国際シンポジウム

### グローバル・ヒストリーとしての東アジア世界と古代仏教の世界

～奈良南都仏教文化史をめぐる日米比較～

奈良時代の仏教文化をめぐる研究は、東アジア世界のなかで孤立するものではなく、グローバル・ヒストリーとしても重要な要素である。本シンポジウムでは、日米の研究内容を比較しながら、新たな研究の可能性と高校生や大学生のみならず大学院生の研究・教育上の視野の拡大に寄与したい。

日 時 2014年12月13日（土曜日） 午後1時～5時20分

会 場 筑波大学総合研究 A 棟 110 番教室

〒305-0000 茨城県つくば市天王台1-1-1

T X つくば駅下車 関東鉄道バス 大学中央下車徒歩1分

開会の辞 午後1時～1時15分

開催の挨拶 人文・文化学群長 伊藤 眞

開催の趣旨 根本 誠二

第一部 講演会 午後1時20分～午後2時50分

午後1時20分～2時

阿部龍一 「『聾警指帰』の再評価と山林の言説」

(ハーヴァード大学東アジア言語文化学部教授

・Reischauer Institute Professor of Japanese Religions)

午後2時10分～50分

サムエル C.モース 「Early Japanese Buddhist Art and the Liberal Arts」

(アーモスト大学美術学部・アジア言語文明学部教授

・Reischauer Institute Associates in Research)

⇒ライシャワー日本研究所との関係をふまえ、両氏の研究内容・成果、日米間の研究・教育情報・環境の紹介と問題点の提示願う。

第二部 討論会 午後3時～午後5時15分

課題：「グローバル人材養成の観点から奈良南都仏教文化史をめぐる日米の

研究・教育環境の比較」

⇒開催テーマを中心に、日米間の学術研究の比較を事例として、学群生・大学院生の留学を主体とする教育交流の問題点をめぐり、討論と意見交換を行う。

阿部 龍一 (ハーヴァード大学)

サムエル C.モース (アーモスト大学)

谷口 耕生 (奈良国立博物館)

本郷 真紹 (立命館大学)

谷口 孝介 (司会・筑波大学)

※進行 根本誠二 (筑波大学)

閉会の辞 午後5時15分～20分

連絡先

筑波大学人文社会系教授 根本誠二  
nemoto.seiji.fw@u.tsukuba.ac.jp